

# 平成30年度 県立芦屋国際中等教育学校 学校評価シート(年度末評価)

<p><b>【教育の特徴】</b>          一般の中学校・高等学校にあたる前期課程・後期課程の6年間を通じて、異なる言語環境や文化的背景のもとに育った生徒が、能力や適性に応じて弾力的に学ぶ中高一貫校として、教育活動を展開する。</p> <p><b>【学校教育目標】</b>          (1) 言語環境や文化的背景の異なる子どもたちの相互啓発により、共に生きる心をはぐくみ、多文化社会に生きる人間形成を図る。          (2) 個に応じた指導の充実により、基礎・基本を確実に身に付け、それを基に自ら学び、考え、判断し、行動する力を培う。          (3) コミュニケーション能力や異なる文化を理解・尊重する態度など豊かな国際感覚を備え、国際社会に貢献できる力を育てる。</p> <p><b>【学校経営の重点】</b>          (1) 個に応じたきめ細かな支援          ① 自己実現への支援          自己の出身国や滞在国等の言語・文化を探究するなど、自尊感情や自己肯定感をはぐくむ学習活動を取り入れるとともに、豊かな共生の心を培い、自己実現に向けた支援を行う。          ② 弾力的で多様なカリキュラム編成と学習支援          少人数指導や個別指導など、6年間を通じた弾力的で系統的なカリキュラム編成を行い、日本語や日本文化の理解の程度、海外で身につけた語学力や教科内容の理解度等に合わせた、個に応じた学習支援を行う。また、ICTの活用や、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努める。</p>	<p>③ 主体的な進路実現への支援          中高一貫校の強みを生かした、トライやるウィークからトライやるワークにつながる体系的なキャリア教育を充実させ、キャリアガイダンス機能を向上し、生徒の主体的な進路実現を支援する。また、様々な語学に関する資格試験に対応した学習指導を行うなど、生徒の個性を生かした資格取得を支援し、後期課程においては取得した資格を単位認定するなど、生徒の達成感や充実感を引き出し、主体的な進路実現への意識を高める。</p> <p>④ 心の教育の推進          道徳教育、人権教育、特別支援教育を計画的に推進するとともに、組織的な教育相談・カウンセリング機能を向上させる。また、生徒や保護者の悩みに寄り添い、学校と保護者が連携して命を大切に「心の教育」の充実を図る。</p> <p>⑤ 交流活動の推進          他の教育機関や国際交流協会、国際協力機構(JICA)などの関係機関等との連携・交流を図り、多様な学習環境を創造する。</p> <p>(2) 開かれた学校づくりの推進          学校の教育目標や指導計画、日々の教育活動の様子を積極的に発信し、学校や地域の課題を保護者・地域住民と共有するとともに、協働と連携を図りながら、保護者・地域に信頼される教育活動を推進する。</p>
---	---

## 【本年度の重点項目】

	領域	重点目標	中間評価			成果・改善点	年度末評価			評価	学校関係者評価・意見	
			点	割合	評価点平均(昨年度)		点	割合	評価点平均(昨年度)			
1	授業力の向上と学習指導の充実	各授業(時間)の目標を明確に示すことができた。	5	11.4%	3.4(3.2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>この単元を学習する目的を説明し、評論の構成や小説の意図を意識して取り組んだ。</li> <li>必ず各授業で目標を示すようにしている。</li> <li>毎時間「この授業ではこれをする」、テストの前には「このくらいのスケジュールで進む」と示している。</li> <li>各授業のはじめに、目標を板書し明確にした。</li> </ul>	5	20.0%	3.4(3.4)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外研修報告会でのプレゼンが素晴らしかった。普通の高校や大学でもなかなかできないレベルであった。いろいろな場面、いろいろな形で教員が生徒をサポートしていることが分かった。</li> <li>6年次生の保護者アンケートから、多文化共生の精神を柱とする本校の教育活動に満足していることがわかる。「本校で学ばせて良かった」の項目で、「思う」の回答が、保護者80.0%であるのに対し、生徒33.3%と数値が低くなっている。この数値が上がるよう今後取り組んでほしい。逆に、「思わない」は保護者3.3%、生徒3.2%と割合が低く、一般の学校では見られない驚異的な数字であると言える。</li> <li>働き方改革に係る法が改正され4月1日から実施となる。学校でも教員の働き方改革が課題となっているので、学校評価に、これに係る項目を入れた方が良いのではないかと。</li> </ul>	
			4	54.3%			4	42.9%				
			2	31.4%			2	34.3%				
		教師からの一方通行の授業ではなく、生徒の活動を重視した授業に向けての改善ができた。	1	2.9%	3.3(3.5)		5	14.3%	3.3(3.4)			B
			5	17.1%			5	14.3%				
			4	40.0%			4	42.9%				
		前期と後期のつながりを意識した授業ができた。	2	42.9%	3.2(2.8)		2	42.9%	3.5(3.4)			B
			1	0.0%			1	0.0%				
			5	12.1%			5	21.2%				
		生徒の習熟度・到達度を意識した授業ができた。	4	45.5%	3.2(3.0)		4	42.9%	3.3(3.4)			B
			2	39.4%			2	42.9%				
			1	3.0%			1	3.0%				
公開授業・研究授業を行うことができた。	5	8.6%	2.2(2.0)	5	11.4%	2.7(2.5)	C					
	4	48.6%		4	48.6%							
	2	40.0%		2	37.1%							
2	情報発信とコミュニケーションの充実	必要な情報を事前に知らせることができた。	1	2.9%	3.4(3.0)	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テストを定期的に行い、生徒の理解度を評価した。</li> <li>Can-Do リストを意識して授業をしている。</li> <li>クラス内の理解度にバラつきがあるため、理解が追いついていない生徒には、補習を実施してフォローした。</li> <li>取り組んではいるが、生徒の学力の差が大きいことが課題と感じている。</li> </ul>	5	12.9%	3.1(2.9)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の目標や、評価項目も一度見直す時期に来ているのではないかと。</li> <li>「公開授業・研究授業を行うことができた」の項目で、評価が低い値となっている。研究授業が気軽に行える仕組みづくりを進めると良いのではないかと。</li> <li>毎年卒業式に参加しているが、卒業生の答辞が素晴らしく、感動する。今年は、マイクの調子が悪いせいか聞き取りにくかった。せっかくの卒業式なので調整をしっかりとしてほしい。</li> <li>息子が今年芦屋を卒業した。この6年間で心をしっかりと育ててもらった。先生方に感謝している。</li> </ul>	
			5	0.0%			5	12.9%				
			4	19.2%			4	25.8%				
		公開授業・研究授業を行うことができた。	2	65.4%	3.1(2.6)		2	45.2%	3.1(2.9)			B
			1	15.4%			1	16.1%				
			5	14.8%			5	12.1%				
		取り組みに関する説明を十分に行うことができた。	4	47.5%	3.2(2.7)		4	38.7%	3.0(3.0)			B
			2	35.2%			2	46.0%				
			1	2.5%			1	3.2%				
		一方通行ではなくコミュニケーションを図ることができた。	5	7.1%	3.0(2.6)		5	10.3%	2.9(2.9)			C
			4	47.3%			4	40.2%				
			2	42.9%			2	47.9%				
結果・成果の通知ができた。	1	2.7%	3.0(2.6)	1	1.7%	2.9(2.9)	C					
	5	10.7%		5	10.2%							
	4	43.8%		4	35.6%							
結果・成果の通知ができた。	2	42.9%	3.0(2.6)	2	51.7%	2.9(2.9)	C					
	1	2.7%		1	2.5%							
	5	9.3%		5	9.5%							
結果・成果の通知ができた。	4	37.0%	3.0(2.6)	4	31.0%	2.9(2.9)	C					
	2	52.8%		2	55.2%							
	1	0.9%		1	4.3%							

## 【専門部の業務評価】

(1)総務部		
項目	平均	評価
企画・運営	4.2(3.6)	A
入学者選考等	4.0(3.7)	A
渉外・PTCA・他校等	3.7(3.3)	B
広報	4.0(3.7)	A
国際交流	3.7(3.7)	B
防災	3.3(3.0)	B
庶務	3.4(3.2)	B
データ整理・管理	3.0(3.0)	B

(2)学習支援部						
教務	項目	平均	評価	項目	平均	評価
	教育課程等	4.0(4.4)	A		進路指導	2.6(3.5)
時間割	4.5(4.5)	A	体験学習	3.3(4.0)	B	
学籍	3.5(4.0)	B	総合的な学習の時間	3.0(3.0)	B	
調査・統計	4.3(5.0)	A	図書	項目	平均	評価
教科書・教材	3.4(4.2)	B	図書の選定・紹介	3.3(3.8)	B	
新入生リスト	3.0(3.0)	B	図書の貸出	3.0(3.7)	B	
学習状況調査・授業評価	5.0(5.0)	A	日本語教育	項目	平均	評価
全国学力・学習状況調査	5.0(5.0)	A	日本語指導	3.6(3.8)	B	
定期考査・データ処理	5.0(5.0)	A	日本語研究	3.7(4.3)	B	

(3)生活支援部							
生徒指導	項目	平均	評価	保健	項目	平均	評価
	生徒指導全般	3.9(3.5)	B		保健活動	3.2(4.5)	B
生徒会活動	4.0(4.0)	A	教育環境整備	3.3(4.0)	B		
特別支援教育・教育相談	3.5(3.7)	B	人権・道徳	項目	平均	評価	
安全指導	3.7(3.7)	B	人権教育	3.5(3.0)	B		
庶務	4.0(4.0)	A	道徳教育	3.3(3.0)	B		
式場準備	4.0(4.0)	A	木管	項目	平均	評価	
関係機関等との連携	4.0(3.8)	A	ネットワーク管理	4.7(4.7)	A		
部活動	4.0(3.8)	A					
特別指導	4.0(4.0)	A					

〈学校評価の改善について〉			
平成23年度の学校評議員会での協議を受けて平成24年度より学校評価を以下の通り改善し、今年度も継続している。			
(1)	学校評価の評価項目	評価項目を減らし、重点目標に係る項目のみとする。	
(2)	部署ごとの取り組み	担当業務について個々の業務内容について評価を行った後、合算して評価する。	
(3)	学校評議員会・学校関係者評価委員会では、重点目標に係る評価のみを協議し、部署ごとの取り組みについては、報告とする。(ただし、著しく評価の低いものについては、次年度の重点項目の一つとして協議する。)		
(4)	年度末の学校評価シートについては、重点目標と部署ごとの項目の評価を記載する。		